

第9回 「会員情報交換会（三日会）」

(11月5日／川崎商工会議所)

第9回は、当協会の副会長でナイス株式会社常務取締役執行役員経営推進本部長の高島章生氏より、「住まいは、命を守るもの。～ナイスグループの取り組みについて～」というテーマでお話をいただいた。

【お話の概要】

・江戸時代に神奈川宿で銭屋の屋号で材木商を営んでいたのがルーツ。1950年に市売木材株式会社を設立し、木材市場の運営を開始。1971年に日榮住宅資材株式会社に社名を変更。2000年にはナイス株式会社、そして2007年にはすてきナイスグループ株式会社となっている（事業会社＝ナイス株式会社）。

・現在は、建築資材事業が連結売上高の約70%、住宅事業が約24%となっている。地域密着型の企業を目指し、カフェを併設した営業拠点を展開、本社周辺の清掃活動も行っている。

・海外展開では、日本の木造建築の良さを積極的にアピールし、最近ベルギーで超大型の高齢者施設を木造（パワービルド工法）で建設した。



・命を守る住まいづくりで大事なのは、①地震大国ゆえの「耐震」、②超高齢化時代ゆえの「健康」、③温暖化問題ゆえの「環境貢献」の3つの要素だと考える。

・「耐震」については耐震博覧会を開催し、耐震、免震住宅の安全性の高さを説明している。

・「健康」では、断熱設計やバリアフリー構造などによる住居内、家庭内事故の減少をめざし、健康素材としての木の効用と建築素材として木の持つ特性についての理解浸透に努めている。

・「環境貢献」では、社有林「ナイスの森」などで森林の保全育成に取り組んでいる。



懇親会の部は、高島副会長のお話のあと12階のトップラウンジに移動し、小俣会長の乾杯発声で始まった。予定の時間を超過した交流は、藪副会長（東芝・京浜）のご挨拶で中締めとなった。